

決済の未来フォーラム
セキュリティトークン分科会

2020年12月8日



**The future depends on what
we do in the present.**

—— Mahatma Gandhi

日本銀行
決済機構局

プログラム

- 開会挨拶 日本銀行 副島 _____ 14:00
- 当分科会の目的説明 同上
- プレゼンテーション _____ 14:10
 - BOOSTRY 佐々木様 20min x 4
 - 三菱UFJ信託銀行 齊藤様
 - SBIホールディングス 藤本様
- (休憩) 15:20-30
- ディスカッション _____ 16:00-55
- ラップアップ 17:00

当分科会の目的

- セキュリティトークンの現状を広く認知共有
- 新しい証券インフラや証券市場の可能性
- 萌芽期におけるイノベーション促進
- 同時に、早い時期にこそ未来像の展望を関係者が議論することも重要
- 中央銀行にとっての示唆

様々なユースケースの可能性

	大口調達（大企業）	小口調達（中小企業）
大口(プロ)投資家	発行・取引・管理コスト削減、 高頻度発行、迅速な調達、クロ スボーダー調達 非金融アセットの市場化 (例：不動産、動産)	同左 VC投資
小口投資家	企業のカスタマー戦略 (ユーティリティトークン活用) 非金融アセットの市場化	同左 投資家のイールドサーチ (新しいアセットクラス) 地域振興

ディスカッサント

BOOSTRY

三菱UFJ信託銀行

SBIホールディングス

東海東京フィナンシャル・ホールディングス

LayerX

Securitize Japan

日本STO協会

日本セキュリティトークン協会

アンダーソン・毛利・友常法律事務所

森・濱田松本法律事務所

佐々木 様

齊藤 様

藤本 様

藤瀬 様

福島 様

小林 様

小柳 様

増田 様

河合 様

増田 様

1. 新しい証券市場の創造

- どのような発展経路を辿るのか？
 - 対象証券、調達・投資主体、インフラ構築運営、プライマリー/セカンダリー
 - 個々のプラットフォームの創造と成長
- 金商業者やプラットフォーム運営者の役割は？ セカンダリー市場のデザインは？
 - いずれも様々な選択肢あり、市場の健全性・公正性・安定性の確保が重要
- 協調領域はどこにあるか？
 - プラットフォームの繋がり (Code/Interface/Data format、クロスリストやオーダールーティング)、所有者・取引情報のコントロールされた共有と活用、これらを実現する技術、普及に向けた広報

2. 新技術がもたらす証券・資金決済インフラの可能性

- 証券決済インフラに求められる特性は？
- 資金決済手段やインフラに求められる特性は？
- DLTなどの新技術活用がもたらしうるものは？

➤ 自動化、即時性、ファイナリティ、コスト、設計の自由度

例：自動的な流動性供給、バックアセットへの預金や当預以外の安全資産の活用、DID、トレーサビリティ、情報の管理と活用、 Programmable security with Programmable money